

平成 25 年度 私立短期大学図書館情報担当者研修会  
B 分科会報告

会 場：アルカディア市ヶ谷・7 階 妙高

担当委員：高階・林・鈴木委員

参加者全員（委員も含む）の自己紹介をそれぞれ行った。その紹介では、各館が抱えている問題点や各館で行っている特色や工夫などの情報提供があった。また、参加館の課題について、他館に伺いたいという意見も出された。

これらの意見などをふまえて、本分科会では、下記のようなテーマを採り上げ、討議、意見・情報交換を行った。

なお、本分科会に参加の館は、ほとんどが大学との共用館であったが、短大だけの単独館が 2 館、高校との共用や情報センターとの共有館もあった。参加された館の中には、共用館となっているが、実質的には、大学（学部）図書館とは異なる組織で、単独館と呼べるような館も含まれていた。また、関心あるテーマも分散していた。

・本分科会で採り上げたテーマ

- (1) 利用者の減少
- (2) 保存スペースの狭隘化
- (3) 地域公開
- (4) 危機管理
- (5) 教員から返却された本

・各テーマ毎の意見・情報交換等（要旨）

- (1) 利用者を増やすための各館の試みが紹介された。例として“栞のデザインコンテスト”、“スタンプラリー（景品：雑誌の付録や図書館員手づくりのブックカバー等）”の実施、“情報リテラシー教育用の冊子体の発行”など、各館が工夫して実施していた。一方、共用館の場合は、学部生より短大生の利用が少ない。これには、教員から課題を出すようにすれば、一時的ではあるが、短大生の利用が増える。
- (2) 保存スペースの狭隘化については、以前から課題として挙げられている。この解決策の一つが、紙媒体から電子化への移行である。例えば、今回の研修会でも関心が高かったリポジトリの構築である。この構築により、研究紀要を公開すれば、冊子体は必要がなくなる。いつでもリポジトリのあるサーバーからダウンロードすることができる。研究紀要は、CiNii やリポジトリで代用するため受け入れない館もある。紀要送付時に紀要送付について問合せの FAX 用紙を同封し、「送付不要」の場合は FAX 送信してもらう方法をとっている。
- (3) 地域公開については、女子大ということで公開していない館がある。地域に公開している女子大の館の中で、18 歳以上の女子に限っている、という例があった。公開すると、いろいろな利用者が入館するので、セキュリティには、十分気を付けている。防犯カメラや非常ベルの設置も必要である。

- (4) 危機管理については、防犯カメラや非常ベルの活用が挙げられる。また、夜間一人でカウンター業務を行う場合は、PHSを携帯して、すぐに警備の方へ連絡が取れるようにしてあるなどの例があった。
- (5) 図書館資料として備品登録している本を研究室に貸し出ししている場合、教員が退職する際にはすべて返却してもらっている。未返却の場合は、同じ本あるいは絶版などで入手が困難な場合は同様な分野の本で代償させている、という館があった。

以上の他に、夏休みの期間を高校生に開放しているという例があった。開放している対象者は、推薦の指定校の高校生に限ることや、利用する場合は制服着用などの制約があること等の情報提供があった。実際の利用者は少ない、ということであった。また、twitter等 SNS の利用や活用例についての質問があり、図書館発信ではないが法人から発信している例などがあげられた。

本分科会は、約3時間にわたる意見・情報交換の場であったが、終了後に参加者から、感謝のメールを頂くなどがあり、参加者の満足度は高かったと思われる。

以上